

# ふるさとを語る

兵庫県は、日本の縮図と言われるほど多様な魅力をもつ県で、多彩な人材を輩出しています。そこで、毎回、さまざまな分野で活躍中の方に「ふるさとひょうご」を語っていただいています。今回は、11月12日（月）にホテル椿山荘東京で開催予定の「総会・交流会」において、歌声を披露していただく、歌手の多田周子さんに、入江県人会事務局長（兵庫県東京事務所長）がお話を伺いました。

## ただ しゅごい 多田 周子さん



たつの市出身。歌手。  
京都市立芸術大学音楽学部声楽科卒業後、オーストリアに音楽留学。帰国後、関西を中心にテレビキャスター、レポーターなどのメディア活動をしながら音楽活動を始める。1995年に本格的な音楽活動をスタート。第5回童謡の里歌唱コンクール最優秀歌唱賞・童謡協会会長賞、2003年Jacomミュージックフェスティバル2003童謡部門グランプリ賞・2007年（社）日本童謡賞・特別賞などを受賞  
2015年11月4日、日本クラウンより「風の中のクロニクル」でメジャーデビュー。  
2018年7月4日、日本クラウンより「なつかしゃや」をリリース。

情歌をうたう歌手になっていくという道が ついたのだと思います。  
**事務局長**…メディア活動をされるきっかけは何だったのでしょうか。

**多田さん**…大学三年生の頃に、ホテルのロビーで弾き語りのバイトをしていたのです。そこで、KBS京都という放送局のプロデューサーの方から、「もし興味があったら、滋賀県の歴史を訪ねる番組のリポーターをしませんか」と声を掛けられたのです。それで、「やってみよう」と言って、メディア活動が始まりました。

私の本当の目的は歌で身を立てることだったのですが、大学を出てすぐに歌手になるということも難しく、テレビやラジオのメディア活動と歌との二本立てで来ていたのです。その後、ようやく歌の仕事が軌道に乗りましたので、歌の仕事に専念しました。

**事務局長**…歌に対する想いや、これまで苦労したことや、楽しかったことをお聞かせください。

**多田さん**…どんな仕事でも、その道を極めるためには、努力を怠らず、ストイックにならないといけないと思います。体調管理や声のこと自分のこと。自分自身が楽器で、この楽器には感情や心もあります。歌手として生きている間、緊張感を持ち続けるといことが、大変といえれば大変です。心に届く歌をうたえるように、スキルアップしていくことは、当然だと思います。多田周子が歌う「ふるさと」はいいなと感じてもらえたら嬉しいです。

**事務局長**…たつの市のご出身と伺いましたが、最初に幼い頃のふるさとでの思い出についてお聞かせください。

**多田さん**…私は龍野生まれの龍野育ちです。父が圓光寺という宮本武蔵が二刀流の修練をした場所で、「宮本武蔵修練の地」という石碑もあるお寺の出身ということもあって、小さい頃からお寺に慣れ親しんできました。実は、井戸知事さんもうちのお寺の門徒さんで、コンサートには毎年祝電をいただいたり、聴きに来てくださったり、応援していただいています。

母は声楽家でしたので、家の中にはいつも音楽が流れていました。そういう環境で

育ち、私も将来は歌をうたうのだろうと思っていました。三才ぐらいの時から、母が、ピアノも歌も聴音も、音楽に関する全てを教えてくださいました。母の生徒さんの発表会で歌ったり、何かあることに人前で歌ったり、ずっと歌っていました。中学校からは、神戸、西宮と京都で先生に音楽を教わっていました。月一回東京にもレッスンに行ったりして、やっぱり歌が好きでしたね。

**事務局長**…オーストリアに留学をされていましたね。

**多田さん**…大学を卒業してから、短期の留学でオーストリアに行きました。向こ

うで暮らしてみても自分のアイデンティティに気づき、日本人である事を強く感じました。クラシック音楽を勉強するためにオーストリアに留学しましたが、本当にヨーロッパの音楽、クラシックをドイツ語で歌うには、ドイツに住んでその風土に馴染んでからでないといドイツ人気質の歌をうたえないと思いました。それで、帰ってきてから、日本の歌や母が歌ってくれ小さい頃から慣れ親しんできた童謡をきちんと勉強し始めて、童謡や日本の歌のコンクールを受けました。

そこで賞をいくつつかいたのです。それがきっかけとなり、自然と童謡や抒

楽しいことは、歌うことでいろんな方と出会うことです。私の歌を聞いてくださった方々が、今度はここで歌ってほしい、あそこで歌ってほしいと、声を掛けて下さり、そこから素敵な縁が広がり、人生が豊かになります。

### 事務局長…二〇一五年にメジャーデビューを果たされました。

**多田さん**…歌づくりは常にやっています。この度嬉しいことにレコード会社のディレクターが気に入って下さり、メジャーデビュー第2弾のCDをリリースさせて頂けることになりました。ずっと歌手活動をしてきましたが、三年前に東京のヤマハホールでコンサートをしたときに、レコード会社と作曲家とプロデューサーの方が、どこからか多田周子の歌が良いらしいと聞きつけて来てくださいました。翌日電話が掛かってきました。「メジャーの世界で歌の仕事をして見ないか？」とスカウトをされたのです。そのスカウトをした方は、五十七歳の歌手を世の中に送り出して、六十一歳で紅白に出場させたプロデューサーでした。ですから、「あなたはまだ若いし、チャンスがあるよ」と。そうして初めて出したのが、「風の中のクロニクル」です。ありがたいことに、出してしばらくして、山野楽器で何週間か1位になって多くの方に聴いていただけました。でも、世の中の人みんな知るといふことになるには、何十万枚という数なのだと思います。そこまでには及んではないのですが。

### 事務局長…七月四日に発売されたニューシングル「なつかしや」のご紹介をお願いします。

**多田さん**…奄美大島にある児童虐待を受けた子供たちが親から離れて暮らしている施設で、歌のコンサートをしてほしいとお声を掛けていただきました。そのコンサートで訪れた奄美で、心のこもった手作りの料理で、おもてなしを受けました。作詞家の方も一緒に行ったのですが、まるで「ふるさと」に帰ってきたみたいだと感激して、曲をつくらうということになりました。奄美大島に限らず、訪ねてくれた人におもてなしをするとか、ずっと都会に出ていて帰って来た人を「おかえり」とおもてなしをする。そこには忘れかけている日本人の優しい気持ちが溢れていたのです。一緒に行ったスタッフ



フもみんな感激して、それで「なつかしや」という歌が生まれたのです。

「なつかしや」という言葉は、奄美地方の方言で、人の心の琴線に触れたときに、使う言葉です。全国どの日本のふるさとにも共通する言葉だなと感じて、「ふるさとに帰ってきた」そういう想いを歌にしました。これは、二〇一〇年に兵庫観光キャンペーンソングとして採用していただいた私のオリジナル曲、「ありがとふるさと」にも共通しています。私が大切に歌ってきた童謡も、基本のところにあるものは「ふるさと」ですし、父や母であったり、ふるさとの原風景というものでも大事に歌ってきた、その延長線上に「ありがとふるさと」と「なつかしや」があります。この曲が皆さんに愛されて、愛唱歌として歌っていただけたら幸いです。

### 事務局長…多田さんにとってふるさとは、

**多田さん**…東京にいとふるさとがあつて良かったと思います。疲れたときに受け止めてくれる、帰れる場所があるという心強さと安心感があります。ずっとふるさとにいと、知らない世界への憧れがあると思いますが、私は歌をうたう上で、「ふるさと」が私の大事な基盤になっています。私が東京生まれだったら童謡は歌っていなかったのかな…と思います。「赤とんぼ」の三木露風のふるさと、童謡の里たつの市生まれですし、揖保川に沈む夕日や室津の風景を見て、人の心に触れて大きくなりましたので。私が今後も

歌っていく上でなくてはならないもの、私を成長させてくれた場所でもあります。

私は、東京に来て日が浅いのですが、県人会やふるさとという存在が、どれくらい大事だったかということ、東京に来て仕事をし、生きている中で感じました。ふるさとの人にも支えられ、自分のルーツはここにあったのだと思っています。

### 事務局長…今年十一月に総会・交流会のステージを願いたいと思います。県人会の皆さんにメッセージをお願いします。

**多田さん**…東京にいるからこそ、ふるさとの有り難みがわかる。同じ兵庫県の人たちだということ、昔からなんとなく知っているような、垣根を越えてすぐに仲良くなれる、本当に大事な会だと思えます。

私の歌を聴いてひとときふるさとを思い出し、「ふるさとがあるから今がある」というような、温かい気持ちになっただけ、そういうものが伝えられたらいいなと思います。そして、皆さんと「ありがとふるさと」を歌いたいです。

ふるさと兵庫の「東京兵庫県人会合唱団」をつくりませんか？ふるさとの皆さんによる「東京兵庫県人会合唱団」で、「ありがとふるさと」や「ふるさと」をステージで大合唱ができれば素敵だと思えます。二〇〇人〜三〇〇人の人が声を合わせたら、きつとすごいことになるとおもいますよ。

**事務局長**…総会・交流会で実現するといいですね。楽しみにしています。